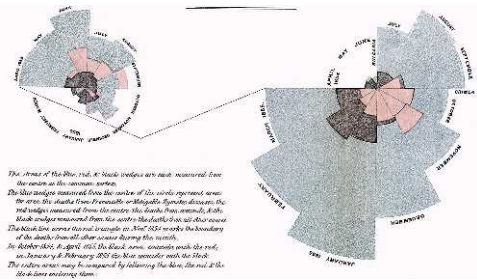




今回は、夜間中からこの四月、看護学校へ合格した武谷さんが先日戴帽式を看護学校で行ったという事ですので、それにちなんでナイチンゲールの話です。名前は聞いたことはあるでしょう。しかし、詳しいことは案外知っていないと思います。彼女は、医療に統計を導入した人なのです。統計というと数学とは、違うような感じを抱いている人も多いと思います。私の学生時代には、統計は数学ではないという高校の先生も結構いました。普通の数学の問題のように答えが一つに決まるという感じがしないからかもしれません。統計は、データの見方によって、使う手法もいろいろ違い、使われる用語も様々で、どの数値で特徴を表すかも違ってきます。それらを代表値と言います。ナイチンゲールは、裕福で教育熱心な家庭に生まれ、優秀な家庭教師による教育を受けました。(フランス語・ギリシャ語・イタリア語・ラテン語・ギリシア哲学・数学・天文学・経済学・歴史・心理学、詩や小説などの文学)しかし、貧しい農民の悲惨な生活を目の当たりにするうちに、徐々に人々に奉仕する仕事に就きたいと考えるようになり、看護婦(現在では看護師ですが、ここでは当時の用語とします)を志します。イギリス各地の病院の状況を調べ、専門的教育を施した看護婦の必要性を訴えます。当時は看護婦は病院で病人の世話をする単なる召使と見られ、専門知識の必要がない職業と考えられていた時代でした。そして 1854

年クリミア戦争が勃発し、前線における負傷兵の扱いが悲惨な状況となっていることが伝えられると、ナイチンゲールは自ら看護隊を組織し、戦地に赴きます。彼女は病院での死者は大多数が傷ではなく、病院内の不衛生(蔓延する感染症)によるものである事を統計調査から見抜き、無理解な軍部を統計データを駆使して説得し、衛生状態の改善に努めました。着任直後 2 月に約 42%まで上がった死亡率は 4 月に 14.5%、5 月に 5%と劇的に



ナイチンゲールが考案した鶏のとさかと呼ばれる円グラフクリミア戦争での負傷兵たちの死亡原因を視覚化

下がりました。このためイギリスではナイチンゲールは統計学の先駆者とされ、1859 年にはイギリス王立統計学会の初の女性メンバーに選ばれ、後にはアメリカ統計学会の名誉メンバーにも選ばれました。また、その夜回りを欠かさなかった働きぶりから彼女は「クリミアの天使」、「ランプの貴婦人」とも呼ばれました。看護師を「白衣の天使」と呼ぶのは、ナイチンゲールに由来します。赤十字の創立者アンリ・デュナンはナイチンゲールの活動を高く評価し、赤十字委員会は「偉大な勇気をもって献身的な活躍をした者や、公衆衛生や看護教育の分野で顕著な貢献を果たした看護師」に対してナイチンゲール記念章を贈るようになりました。また、多くの看護学校では、「戴帽式」でナイチンゲール像からロウソクの火をもらい、「ナイチンゲール誓詞」を誓いの言葉として唱えます。

